

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 町人生活と交通の発達	内容のまとめ B 近世までの日本 (3) 近世の日本 (イ) 江戸幕府の成立と対外関係
--------------------------	---

1 単元目標

- ・ 街道の様子（旅籠屋の招き看板など）について資料を適切に読み取り、庶民の旅行の目的・行き先行程について理解する。
- ・ 江戸時代の庶民の様子をについて旅先や宿場の発達、仕事としての旅（飛脚・旅籠）などの複数の側面からとらえ、庶民の社会的・文化的な交流が産業・文化の発展に結びついていったことを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 江戸時代の庶民が旅行の目的、行き先、道中のようすを調べることを通して、地域の歴史に関心を持ち、そこから江戸時代の庶民の様子について主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

江戸時代の学習では、交通の発達と経済の発達を関連させて学習するが、その実態について考察する場面があまりない。そこで、東海道の宿場（神奈川・保土ヶ谷・戸塚）があり、中原街道や矢倉沢往還などの脇往還が通っていた横浜市という地域的特色を利用して、江戸時代の交通について学習し、江戸時代の庶民の生活へと理解を深めさせたい。

3 実践計画の概要

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりを基に、町人文化が都市の中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。	・ 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
・ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりから、町人文化が生まれたことを理解している。	・ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりから形成された都市中心の生活について、多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 江戸時代に形成された産業、文化の発展から、より良い社会の実現を視野に、そこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(2) 指導と評価の計画[4時間扱い]

主な学習活動と内容 (時間数)	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>1 綱吉の文治政治と元禄文化 文治政治の恩恵について考える。 学問と文化の発達を理解する。</p>	<p>◇争いのない平和な世の中が生まれたことでどのような影響があったかを考えさせる。 ～学問や文化を重んじる・経済活動に集中できる・娯楽を楽しむ～ ◆浮世絵や歌舞伎、俳諧を資料で紹介</p>
<p>2 新田開発と産業の発達① 農業の発達、産業の発達について理解する。</p>	<p>◇争いがなく平和であったことで発達したことを説明し、理解させる。 ◆具体的な変化を図で理解する。(千歯こきなど) ◇交通と都市の産物がのる地図から、米だけでなく多くの商品作物や特産物があったことを理解させる。 ◆交通と都市の産物がのる地図</p>
<p>3 交通と人々の生活 本時 身近な東海道について理解する。 旅をテーマに関連する人々の生活について考える。 旅をテーマに、班で一つの課題を設定する。 模造紙にまとめる。 発表シートをもとに、各グループが発表する。</p>	<p>◇資料(現代と江戸時代の東海道など、資料集参照や資料1)から、資料から分かることを考えさせる。 ◇どうして街道が発達したのか、大名行列や庶民の旅を例に理解させる。 「荏田宿庚申塔」(資料2) ◆「茶屋『桜屋』と東海道の旅人たち」(資料4) 「村のくらし」の展示物 祭礼風景模型(資料5) 金澤八景一覧図(資料6) 東海道五十三次名所名物図絵(資料7) ◇班で役割分担をさせる。(班長、発表者、作成者、道具管理者など)</p>
<p>4 藩校と寺子屋 学問が発達した理由について考える。 寺子屋の果たした役割を理解する。</p>	<p>◇争いがなく平和であったことで発達したことを理解させる。 ◆世界都市と江戸時代の日本との識字率の比較資料 ◇庶民にまで貨幣経済が広がり、通貨社会になっていたことを確認し、読み書きそろばんができないと豊かな人生が送れない時代であったことを伝える。</p>

4 本時目標

- 江戸時代の旅に関する資料を収集し、江戸時代の庶民の様子について主体的に追究しようとする態度を養う。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
<p>・資料から、東海道などの交通の発達が自分たちにとって身近なところに、街道の発達に関するものが残っていることに気づく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】 S：船があるから、この町は港町でしょうか。 S：道に沿って、たくさんの建物が並んでいます。</p> </div>	<p>◇写真資料（現代と江戸時代の東海道など、資料集参照や資料1）から、資料から分かることを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問例】 T：写真資料①は東海道の宿です。この資料から分かることはありますか。</p> </div>
<p>・旅をテーマに、関連する人々の生活について理解する・</p> <p>①旅行の目的（大山講などのまねき看板。資料3）</p> <p>②道中の様子（茶屋の様子など）</p> <p>・旅をテーマに、班で一つの課題を設定する。</p> <p>課題例</p> <p>「旅の目的・行程」</p> <p>「宿場の役割」</p> <p>「道の管理」</p> <p>「仕事としての旅」</p> <p>・模造紙にまとめる。</p>	<p>◇どうして街道が発達したのか、大名行列や庶民の旅を例に理解させる。</p> <p>「荏田宿庚申塔」（資料2）</p> <p>◇各グループに関連する資料を探すときに、旅と人々の関係に着目するよう指導する。</p> <p>◆「茶屋『桜屋』と東海道の旅人たち」（資料4）</p> <p>「村のくらし」の展示物</p> <p>祭礼風景模型（資料5）</p> <p>金澤八景一覧図（資料6）</p> <p>東海道五十三次名所名物図絵（資料7）</p> <p>◇班で役割分担をさせる。（班長、発表者、作成長、道具管理者など）</p>
<p>・模造紙をもとに、各グループが発表する。</p>	<p>◇発表の順番を決める。</p> <p>◇発表の注意点を理解させる。（聞く態度、話し方など）</p>

6 博物館との連携

- 横浜市歴史博物館 常設展示物
- ・茶屋「桜屋」模型
 - ・庚申塔（複製）
 - ・神奈川宿「東海道分間延絵図」
 - ・神奈川宿
 - ・大山講御神酒杵
 - ・まねき看板 等があり、撮影もできます。

【展示資料】

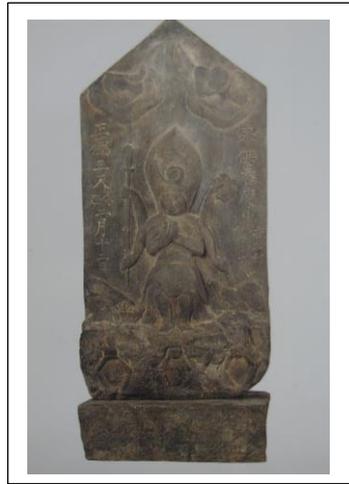
資料 1

常設（近世）神奈川宿



資料 2

常設（近世）庚申塔（複製）



資料 3

常設（近世）まねき看板



資料 4 常設（近世）桜屋



資料 5

常設（近世）祭礼風景模型

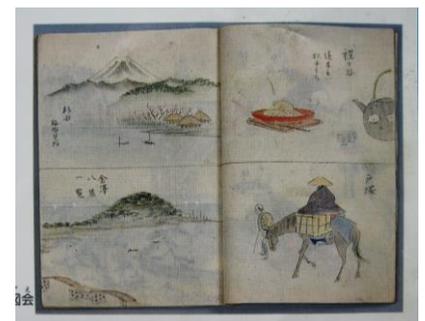


資料 6 金沢八景一覽図



資料 7

東海道五十三次名所名物図絵



資料 6 資料 7 は常設展示室には展示してありません。冊子「常設展示案内」（横浜市歴史博物館発行）の解説から掲載しました。